

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100335		
法人名	有限会社 ルーク		
事業所名	グループホームソフトハンド茨島		
所在地	秋田市茨島4丁目1番6号		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは秋田市内では少ないですが、どこよりも安い利用料となっております。その理由は生活保護受給者も利用できる市役所指定を受けているからです。代表者が考えるのは「誰でも利用できること、安心できるサービス提供」です。利用料が他より安いからといって他とのサービスとなら変わりません外部評価通りです。同法人の経営するソフトハンド勝平との連携を密にし、より良いサービスの向上目指しております。余暇活動では土地を生かした園芸交流を行っています。その他の交流行事を含め、各行事を月2回以上行う方針でこれからも多く企画して行く予定です。また、ホーム内は家庭的でアットホームな環境が売りで、馴染みやすく穏やかに過ごしやすい空間を提供できていると思います。個人に合ったより良いサービス提供が出来るようスタッフ全員で日々努力しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.akita-longlife.net/evaluation
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

誰もが安心して「普通の暮らし」が送れるように、家庭的な生活環境のもと、「街角福祉」を目指している事業所です。利用者一人ひとりが、自らの生活スタイルを崩すことなく、活き活きとした表情で、和やかな会話と笑顔が印象的でした。また、利用者の残存機能の維持・向上に力を入れ、軽体操やりハビリをさりげなく行い、外出の機会を多く持たれる等、家族や地域との連携を深め、刺激のある生活を支援されています。さらに、毎月行われる職員自己評価によって、自らの言動を振り返り、次のステップに結び付ける等、質の向上にも取り組まれています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年2月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲示し、各会議での話し合いにてその理念に基づき実践につなげている。	重要事項説明書に企業理念が掲載されており、掲示もあります。職員へは、会議ごとに話され、理念を共有し、安心して住める環境、街角福祉をめざし、実践に繋げております。なお、理念を端的にまとめられる工夫を期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会費を支払い町内会に協力し、地域の美容院の利用や隣にある幼稚園との交流もしている。	散歩時の挨拶や町内会に加入され、町内行事への参加、近隣美容室の利用、幼稚園との交流、事業所行事への招待、近隣スーパーでの買い物等、地域の一員として日常的に交流が持たれております。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進委員会を通じて町内会へのアピールをし、さらに実習生・ボランティアの受け入れなどを計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見をまとめてこれからのサービス反映に活かそうと努力している。	開設以来2回の運営推進会議より開催できていませんが、前回会議で参加者からの提案をもとに改善を図り、次回に結び付けようとする意気込みが感じられます。	今後、概ね2か月に1回は開催できるように取り組まれること期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に報告を密にし、アドバイスをいただきながらサービス提供している。	市役所に出向き、事業所の実情を報告し、助言をもらう等の連携をとられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、正しく理解し対応している。	全職員が共通理解のもと対応している他、新任職員研修においても身体拘束に関する考え方を伝え、身体拘束をしないケアを周知されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、防止に努めている。		

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会を行い、職員も理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が理解・納得のいくように、十分な説明を行っている。疑問点にも答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会と共に開催させていただいている家族会を通して意見交換をしている。	家族等からは運営推進会議と同時に開催される家族会の席上や面会時、電話、意見箱等で意見や要望を伺い、利用者からは日々の生活の中で、一人になれる場所や言い出しやすい職員によって聴取され、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の会議を設けて職員相互で話し合いの出来る機会、環境を整備している。	話しやすい雰囲気作りに心がけ、月2回の会議や日々の業務の中で意見や提案を聞く機会を設けられ、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年キャリアパス制度を導入し、運営規程、就業規則、賃金規程を職員と共に確認し、より良い環境を整備するよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はなかなか出来ていないのが現状ですが、代表者が現場にも出ているので、事業所ごとの実際を把握し、職員会議で一人ひとりのレベルに合わせ講習会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークとしての環境整備が不十分でもっと取り組んで行きたい。		

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階の不安や苦情等の訴えは記録への転記と共に職員全員が把握することで、個人の訴えに対し柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等に対し、管理者・職員が会議で報告し合い解決できるよう対応している。また、日々の記録を閲覧していただき、または報告することで信頼を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は運営理念を理解し、共に生活することを重視し、生活を支える立場としてサービス提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活をする上で、本人の出来ることに着目し、お互いに助け合い生活することで、それぞれの良い関係が出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族間との関係が途切れないよう、日頃から連絡を取り合い、また、衣替えなどの家族の協力を得る機会を設け、それぞれがホームへ来やすい環境を提供している。	友人の面会や訪問、自宅訪問、墓参り、使い慣れた美容室の活用、行けつきの病院等々、家族等の理解と協力を得て、関係が継続できるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	引きこもりがちな利用者様にも、日々の余暇活動等の内容に配慮し、興味を持ち参加できるように職員同士で考え、出来るだけ多く利用者同士が関われるよう配慮している。		

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者家族とも、介護に対しての相談を受けるようにしている。実際に相談を受けて他施設への紹介を行う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングとアセスメント会議により、全職員で把握し対応している。	重複担当制を持ち、利用者一人ひとりの思いや暮らし方について日々の生活の中でさりげなく聞き出し、困難な場合は、仕草や表情、これまでの生活歴等から利用者本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査報告を基に、職員と会議の中で情報を共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動を常に観察し、早番、日勤、遅番での3交替で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族参加のモニタリング会議は出来ていないが、職員と家族との日々の情報交換にて意見や課題を把握しケアプランへの反映ができています。	家族等からは、面会時や電話等での状況報告時に、利用者からは日々の生活の中での意見や要望を全職員が日々の記録をもとに把握し、会議等で話し合われた内容が、介護計画に反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の状況を夜勤記録、日中記録、看護記録と3段階に分けた記録にて、詳細な日々の状況把握を常に行い把握できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ美容院や病院、近所にある郵便局やお店に出かけることで、気晴らしや満足感が生まれるように、また、意欲を持って出かけられるように、暮らす地域に馴染むように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合い、納得の上で希望される病院へ通院できている。	本人・家族の希望の医療が受けられるように家族等の協力を得て支援が行われ、受診結果は双方で報告し合い、連携をとられています。記録も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない施設ですが管理者と共に全職員が相談し合い適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師がいない施設ですが他機関の医師と看護師にも情報を提供しより良い治療がなされるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設には限界があることを伝え、常に状況把握しながら、家族と話し合い、次の段階の施設への申込みなど、早めの対応を支援している。	医療行為が発生した場合や重度化した場合に事業所での対応には限界があることを契約時に説明をされ、理解をいただいての入居となっており、職員も方針を共有し、対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用の講習会を受け、職員が緊急時に活用できるようにしている。緊急時のマニュアルを基に講習会を開き応急手当の勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の共通の避難場所が離れているため、隣の幼稚園の駐車場へ避難するよう伝えている。町内会からの意見では、緊急を要するお年寄りが地域に多く、その手助けを含めお互いに来ればよいとの意見もあります。	今年度は年3回の夜間想定避難訓練の計画書が消防署に提出され、助言指導をいただき内2回が実施され、全職員が同日に訓練体験を行っています。また、地域との双方の協力体制を築かれています。尚、消防署員の検証を盛り込む等の工夫を期待します。	

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本の挨拶を含め、職員同士で耳を傾けながら注意し合い、また、初心に帰り対応しようと目標に掲げ、利用者様一人ひとりを敬い、尊重し声掛けするよう配慮している。	利用者一人ひとりの人格を尊重され、プライバシーに十分に配慮され、気になるような言動は観られませんでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に気軽に相談できるように配慮している。また、個別に相談できるよう、何気なく個別にドライブに誘い意見を聞きだそうと努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格を考え、自由に過ごしていただくため、日課は最小限に設定するよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	朝はその人の着たい服を選んでいただいたり、男性では髭剃りや洗顔、女性では自室で自由にお化粧が出来るよう配慮している。また、化粧品の購入も本人と一緒に歩くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものを選んで買えるようにしたり、食事片付け担当を決めたり、準備が出来る方には手伝ってもらうよう日々努力している。	食材の買い物に同行したり、役割を持つことで率先して食事の準備や後片付けができる等、いかに力を発揮し、生き生きとした表情で食事を楽しんでいる様子が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい利用者に対し好みの調査を行い、なるべく多く食べていただけるよう配慮したり、食事量、水分量を毎日チェックし状況把握し保つことが出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生チェックを毎日行うと共に歯科医からのアドバイスを含め口腔ケアの大切さに着目し職員と共に配慮している。		

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のおむつは使用しないように目標を立て、尿意・便意のある他にも本人のペースに合わせた定時を設定しトイレでの排泄が出来るよう配慮している。	排泄チェック表を用い、排泄パターンを把握され、さりげない言葉かけによって、トイレでの排泄が行われ、失禁回数・パット使用量の減少に繋げております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として繊維質の食材を多く使用した食事になるよう配慮すると共に、医師からの指示の下、個々に応じた下剤調整をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴を行い、介助の必要な人、そうでない人を午前と午後に分けています。希望により午前中はいつでも入浴可能にしている。	毎日では入浴は可能であり、最低でも3日に1回は入浴していただけるように配慮され、希望に合わせて、入浴ができるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間の調査を日々の記録にも反映させ、その人のペースで入眠時間の調整が出来るように日中の活動内容を調整しながら配慮している。また、安眠できるように個々に医師へ相談し服薬調整もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を取り上げた研修会議を開催し職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望する料理があつたりする場合はその人と共に調理したり、役割への飽きが来ないように職員が考慮し、違う仕事をするようにとその日の気持ちに配慮し対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	幅広く対応するために、おやつや買物やドライブ、陶芸教室への参加、畑仕事、法人の他事業所利用者とのマージャン、その他の余暇活動、各役割分担などを機会ある毎に実施している。	事業所周辺の散歩や畑づくり、買い物、他の事業所との交流、花火大会、竿灯、各種の祭り見物、ドライブ、演芸観賞、外食等々、全員参加の他に個々への対応も行われ、外出が日常的に行われております。	

グループホーム ソフトハンド茨島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていないが、買物やドライブの時は出来るだけお小遣いを持っていただき、その場で支払いを出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にある電話は自由に使用できるようにしている。また、手紙を希望する利用者には、職員が購入し、書けない字がある場合などと一緒に書いたり、常に日記を書いてもらい書けなくならないように、やり取りの障害を作らないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には段差があるので、障害物を置かないよう配慮し、その他のスペースには季節感のある花や飾りを置き、分かりやすい表示をして対応し混乱を招かないようにしている。匂いが出るようなものは置き場所を決め、利用者へ配慮している。	小上がりの畳スペースやソファの配置、広々とした食事テーブル、テレビ等の配置で利用者が思い思いの場所で自由に過ごすことができ、行事時の写真や季節ごとの作品が飾られ、気になる臭いもなく居心地良く過ごせるように工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者からの意見を基に希望通りのテーブルの配置や席を決め対応している。椅子だけでなくソファもテレビが見やすい位置に置き、座敷でも自由に過ごせるように整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から家具全般を慣れ親しんだ物を用意していただき、その人が過ごしやすい空間となる様に配慮されている。	利用者一人ひとりが、思い思いの筆筒やベッド、椅子、テーブル、鏡台等の家具や仏具、遺影、家族写真等々の他、趣味の物を持ち込まれ、「自分の部屋」を作り出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限必要な環境を提供し、迷いや混乱の無いように大きく掲示物を張り、残存している能力に働きかけながら生活できるように、さりげない援助の下で安全に生活できるように配置を考え対応している。		